様式６号の１１

学番	3	県立新潟南高等学校

令和２年度　　学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	「学力向上」「人間力の強化と自立・自律」を基本方針とし、生徒の高い進路希望の実現を図り、知・徳・体のバランスのとれた社会に貢献する気概を持った生徒を育てる。	
昨年度の成果と課題	令和２年度の重点目標	具体的目標
〈成果〉 **〇進路指導** 令和元年度卒業生大学進学者数 ・総計名(310名)(進学率85.6%) ・国公立大(200名)(55.2%) ・難関大学(18名)(5.6%) 〇1年次「江風探究ユニット」と2年次「江風 SSG」「江風 SS Ⅱ」を接続することにより生徒・教員ともに課題研究に対する理解が深まり、より教育効果が高まった。 ・目的を明確にした職員研修を複数回実施し、指導方法および評価方法についての理解を深めた。 ・自校の取組成果を広く普及し、同時に広域での連携強化を図った。 **〇生徒指導** ・服装指導、交通安全指導を徹底した ・学年の協力体制の強化図り生徒の心のケアを一層充実できた。 〈課題〉 ・難関国公立大学進学希望者の増加への対応 ・高大接続改革への対応 ・交通安全指導の徹底	〇進路意識の啓発と高い進路希望の実現 〇個性の伸長と文武両道の実践	・定期的な情報提供により進路意識の啓発を行う。 ・大学訪問や講演会等を活用して、探究心や職業観を深め、主体性を育む。 ・課題の精選と課外活動の充実に努め、文武両道を実践する。 ・模試活用と個別面談の充実を図る。 ・東大、京大、一橋大、東京工業大、国公立大医学部医学科に、５人以上の合格者を輩出し、国公立大学の実合格者数の割合60％以上、難関大学合格者30名以上を目指す。
	〇基本的生活習慣の確立 〇服装指導と交通安全を重点とする生徒指導の確立	・毎日の遅刻ゼロを目指す。 ・正しい身だしなみを身につける。 ・自転車運転マナーを遵守させ、交通事故ゼロを目指す。
	〇家庭学習習慣の定着 〇「第１志望の大学に合格」できる学力養成	・家庭学習時間の確保(学年+2時間)。 ・難関大学入試問題の分析等により、指導の充実を図る。 ・学習が遅れがちな生徒に対しては丁寧に個別指導を行う。
	〇ＳＳＨ事業の推進	・全校体制で課題研究に取り組むことを通し、「探究力」を獲得させる。 ・郷土を知り、貢献することを当事業の軸に据え、自治体や近隣の大学等と連携し、社会との接続を意識した研究開発を行う。
	〇いじめ防止対策の徹底	・生徒対象アンケートによる実態把握を行い、早期発見に努める。 ・教職員研修により、いじめ対応に係る資質・能力の向上を図る。 ・いじめ防止対策及び発生した場合の対応を組織的に行う。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
進路意識の啓発と高い進路希望の実現	進路情報の提供	個人面談年４回以上、学年ＰＴＡ年２回以上、学年便りの適宜発行など、生徒や保護者との相談及び情報提供を効果的に行う。	A	A
	探究心や職業観の育成	大学・職場訪問、大学講義体験、修学旅行、進路講演会などを通して、探究心や職業観を育成し、自ら考え、自ら学ぶ姿勢を涵養する。	B	
	文武両道の実践	課題の精選に努め、難関大学志望者に対応する課外講習や個別指導の充実、学校行事・部活動の活性化等を図り、主体的な行動を促す。	B	
個性の伸	模試の活用と個	課外講習や模試の事前事後指導を通して、生徒に具体的な目標を設	A	

長と文武両道の実践	別面談の充実	定させる。模試結果から生徒の学習状況を把握し、適性を見極める。		A	
		年間を通じて継続的に個別面談を行い、個性を見出し、気づかせ、伸ばす指導を実践し、学びのポートフォリオづくりの一助とする。	A		

基本的生活習慣の確立	身だしなみ指導	女子のスカート丈の指導に加え、リボンの正しい着用を徹底する。積極的に声がけを行い、挨拶を励行する。	A		A
	交通安全指導	自転車の交通安全指導を通学路で実施する。 交通講話を実施し、交通事故防止への意識を高める。	A	A	
	携帯電話・ＳＮＳの適切な使用	携帯電話の使用についてルールを守らせる。ＳＮＳやＬＩＮＥ等による、ネットトラブルに巻き込まれないよう指導する。	A		
	保護者との連携	ＰＴＡ活動・保護者と連携し、基本的な生活習慣（頭髪、服装、遅刻、早退）を確立させる。	A		
	心のケア	学年・保健部・臨床心理カウンセラーの連携により、生徒の悩みに早期に対応して、不登校等の予防を図る。	A		
学力向上	学習習慣の確立	朝学習と家庭学習課題を充実させ、家庭学習時間（学年＋２時間）を確保することにより基礎学力を定着させる。	B		A
	成績上位者対応	長期休業中に講習を実施し、学力の向上と発展的学習を行う。	A		
	成績下位者対応	成績不振者には、学年と連携し、講習会や個別指導を実施する。	A		
ＳＳＨ事業の推進	「探究力」を身に付けるための課題研究充実とＴＡＣＣプロジェクトの深化	「江風ＳＳⅠ」、「「江風ＳＳＧ」、「「江風ＳＳⅡ」、「江風ＳＳⅢ」での指導に加え、学校の教育課程全般を通じ全校体制で生徒の「探究力」向上を図る。	A	A	A
		主体的な課題発見能力・課題解決能力を育成するため、「課題研究」を軸としたＳＳＨ事業及び学校設定科目の開発・研究を行う。	A		
	江風グローバル研修プロジェクトの推進	海外研修を通して諸外国との継続的な科学交流を進めることにより、国際感覚や語学力・コミュニケーション能力・ディスカッション能力を育成する事業の開発・研究を行う。	A	A	
		「江風グローバル研修」では、科学論文や発表ポスターを英語で作成し、海外の生徒との科学に関する交流を通じ、グローバルな視点と実践的コミュニケーション能力を備えた、未来を担う科学技術系グローバル人材の育成を目指す。	A		
	課題研究に対する意欲の向上	学校全体で積極的に課題研究に取り組み、科学コンテスト等課外活動に積極的に参加させることで生徒一人ひとりの意欲を喚起する。	A		
	情報公開と成果の普及	課題研究発表、Ｗｅｂページへの事業内容報告や開発した教材の掲載、研究会や学会での発表により、研究成果の普及を図る。	B		
いじめ防止対策	いじめ認知の推進	生徒対象アンケートを年３回以上実施して、生徒の実態把握に努める。また、教職員対象の研修会を実施し、いじめの早期発見、いじめへの対応に係る教職員の資質・能力の向上を図る。	A		A
	いじめ事象への適切な対応	いじめ事象が発生した場合、管理職への報告、関係生徒からの事情聴取、及び指導、保護者への説明等を組織的に行う。	A		

		総合評価
成果	・新型コロナウイルス感染症による休業中において、動画配信と課題を組み合わせ、生徒の学習保障を行うことができた。また、リモート面接等の工夫により心のケアについても行うことができた。 ・新入試制度が始まり、総合型や学校推薦型選抜に対しては、進路指導部と学年が中心となって情報提供をし、全教員で生徒の指導にあたることができ、成果に繋がった。 ・ＳＳＨ事業において、海外研修の代替活動を工夫し実施するとともに、「江風グローバル研修（日本海・アジア文化圏交流）」を開催し、アジア地域の高校生と英語による日常的な交流を行い、国際性を高めることができた。また、中間評価での高い評価を得ることができた。	A